行脚文集

出羽　陸奥　下野　武蔵
相模　伊豆　駿河
三河　尾張

へ5
2873
7と

へ5
2873
7

日本行脚文集巻之七　大尾

貞享三丙寅玄中旬。羽州象潟に行く。やくして雨霽。

○阿古耶松　夢の浮橋とかよひ侍りし。

象潟や雨に西施がねむの花

蚶満寺に入て。寺に上る。

松の木の間に見え侍る。

汐越や鶴脛ぬれて海涼し

能因島

恋しらん人の来て見よ塩竈の浦の波の下にかくれぬ

入口に侍る。

向ふ岸に小舟つなぎ置て。

波の上の松の緑や春の雨

黒もちろくぬぐ沈くぬぐ沈くうるうて。細の沈くんぬぐ。沈くるぬ脚かく
ぎんもあるぬ脚ーとぬぐひのぬぐちんぬ。ぬ沈くぬぐやぬくくんぬぐやは
下とくぐくるとて。中ぬ沈ぬくぬみくぬ乾て。くふぬ脚ーぬくとくぬくぬぐくの
ぬぬ油ぬ一株のぬありぬ。あのくれぬみくぬぬぬ沈くぬぬぬみーぬぐぬ
ぬぬぬぬぐくりぬおもやくーじくとぬひくぬ年ぬくくぬひぬ。ぬぬくぬ沈ぬ
ぬくぬくぬぐくぬぬぬぐくぬぬぐくぬぬぐく

金富士延沢銀山のふもと。

月と吐て鄙に雪降る市中仙　同蘭夕

月と帆に一葦に棹せ瓢漂軒　山形松尾　子守

月の化身三嶽のかれ雲　同田　幽窓

○子持石記　郡山の隣に中村藩村の中に古墳あり。

国園義。雄略天皇の時七百歳の三郎翁ありて。小

家ありて一つ拾ひ。お帰よいふ。下向せ。ゆ月と絡ふ

たづひ山ふもとりて狂ひ八十年ほどふ毎にて一搭ほに成。

家老屋敷乃ごくうれで。嬢ふとの子孫ふ見たを産

事。既よ二百年よりぬ。年こよかりぬ。あこよみ。ちりん

ひろ。孫者石成長をる。ゆえ乃家て旨卵形ありて。居て太

小あり。と雄郎と崇彦。こ昌雄掌とかつとごこ。余二平

絵年むこ乃こよ信ぜりいこに。行る事よ伝ふかるこず

新心あるべこず。　○月よとりん神代のはるやよねん

○ふ乃ふ宿乃船津りすあるふと　羽列大石田鷹野氏　一栄

きこて。京女のむこ。とふこ

こふ。餐ありこるこで　尾花沢村川　残水

○ちのく孫狩乃ものも。絵よ

銀よふ岸せこ。ご墨と

○伝あるべきこるこ。ひるごろ　鈴川　俊親

行御行御。氣とちのごろ。紅雪　水風呂や鳥海乃一ちごん　鈴木　似休

行ぎふかこ。みるこむさ　尾花沢村川　崇智　三井　駿の馬ごろ

冥福を雪の富士見塚

河合相甫嫁して薬籠ひてん　鈴木氏　宗圓

れちくの屋敷の雪をとい申　老妻花

乃を吹雪とる翁の別れ　富士谷地田宮氏　年玄

侍り。又鶴の巣山旅寝まるい常に今仏なり。但信心誓願上

人を南無ぜーが。ぜーこの世の夢の寂寞ふるし。ゆ院縁起眺

望乃一軸西望により書。長奏。故略。扨ふ雪の郷路を清。冥福をと

紅みち雪筑波の月の年にてこそ浦よりいで雪みちる。

先祖より伝らびよ侍りて。序はも肌を弱ちたまつぬ侍りけり。

侍長七歩乃雪観音とぜ。ぜ家乃鶴代よ陸奥一ゆ老禅乃日

いでぜ仏の本縁を中こ見縁荒添ゆ石さゆ。ゆ侍こ。

月氏乃長者が。何乃如来紙縁井まりし。紫金銅乃湯縁ゆ。

こゆ。雪雪となどいひのこ絵ふぜ。寺ゆ縁仏と成ゆ。

あら墨紙ゆ。ゆ乃仏や。下偏や乃原拠不信者乃紙袋よ

かりこ。線こ雪ゆこ鼻こ。ゆ。ゆ。ゆ

りくとう陽自落乃声仙春山寺氏よ笠と脱。あそや四
寺乃景色を雲仏踊ちゝ仏ほどる鳥のゆ笑ひてゝ花ちづつ孔雀乃
非を高圧大額と化し雲母乃缺掘て番袖よ音ど。龍門の景
寺数百乃景色。鈴をくと讃むゝく色づゝふ物をゝど。
月さゝぎゝりくんゝもゝふゝるゝて寺のかゝらみ雪よんて
も馬鳥。なゝこゝゝひんあつきほゝひぬやゝこゝてちづあおゝび
をゝふゝぞ。をにゝもそみんゝを。しゝんゝへもゝぬ世乃掘ゝといへ
ぞ。こゝをふあゝをゝゝ仏ゝうを再金鈴絹鶴音んといひくゝえ
ちくゝ鈴をゝゝり。遠宮ちゝ乃琴郷よたいめゝく。掘ゝう
言鈴ゝ。ゝを和ゝ寺ゝの濃れ世よゝのゝ和ゝもゝかゝゝ鈴ゝ
ちく。樵もゝゝろゝ鈴ゝんゝよゝやゝくゝくゝいゝをゝて雪ゝ風。

○松島　ゝゝゝの我松島乃景ゝゝゝゝゝゝ南

行波乃ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝ濱雪ゝ鈴ゝゝて。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝる
声雪ゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○わかさくしさいかみ勝縁の　○切籠裏や早俤の　袮　石巻上地氏　三夕
おもかく貧意たりとかるしたる　雅賀丸　袮の濃よ深る月　木村氏　卅益
人く集キやよ。逆てくいけ沿。　風と陰人や手年れ肌　森氏　友水
きてそ乃南れ名もなくそ。　雪なや切籠鏡れ冨佐師　山本　殘雪
ほ乃言やもしにくうもーなど。　なる一働ぱぱと墻乃　袮　谷水
ひざとかさもく俗りしみ三夕よ　なーく乃白足仙や雪れ屋　祖輕
乃山庄へ添貧豪ム休石山れ市　行脚阿天雪も縁れ丸　西村　快長
俗。風光れ赤豪一軸せーが略。
○宮く接狩乃白下陸ーなそ。いけ。
○そ。ちいせーく変俗し　○又集よけ一かぬ鏡ぎ萩　三夕子
よ。行袮記ぐいぐときて。　くぬ乃ぬ乃る宮歴の庵
添くしれ。も言くまそのいちれ。　なれ。古名集三拍ぐせーが略。ヒヨリ
記ど。沿半石間ム置俗。ぱ乃　名れ古名。鏡ム古名。石望よ。

○奥州仙臺領岡八幡宮遠眺、詞并二十八景品定

大始樓乃山樓ハ一氣乃躍材自然のえもつくそくこの七
樓地れ名礦ム袮詰めて。ぱ代石易乃新嘗ぬ。ぬ沼繽。ひ。ぬ
ぬ乃神乃ぬ三ぬ乃声律ぬ。ぬ。ぬの根ぶーなり。宗添ハ山合
とわぬくぬ。奇元ぬ同神とぬて。ぬ宮ぬ。ひ性乃曲徒とぬ。
山三郎ぬ合一石直の大乃。ぱ。一和ぬ乃ぬ乃ぬ。ぬ。ぬ八合
嶽ぬ乃神性ぬ。男毒ぬ乃ぬ乃祖ぬ。奇ぬ。ぬ。胎中ぬ分
の濃衡。葬列乃ぬよ行乃。ひ三韓繽とぬ。ぬ。宮花乃聖風い
八隅乃耳よ陶ぬ。ぬ。ぬ。ぬ性ぬ化乃ぬ。ぬ。ひ。ぬ。
御ぬ。ぬ濃ぬ乃地よ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
停ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。
地ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。

天荒混沌として見れば懸く彦神神ありとあらたの神言せ
より和歌乃浦に月影川乃ちぎれよ結ぶ。風塵乃風と奇蘭川の
鱗さして放生会乃肥おるぐ海老乃あく乃あく蓋茶と負て。
男代と鶴ノ亀冥乃頂よ。風閑会の会彩屏。博風乃ちろひたち
らく。勝間乃木れ。ぐ。ぐ。ぐ。常屋よ縫ぬ。富神月。山面
氏古佐乃法貞代と連絡と顕奉。朝神祭夕御饌。和帯曜
和帯とかぐ。鳥帽子祝く。月数見波を洒し。領巾姿。紫波
楽生成なり。鄭遊聲徑遊行乃厚うん事とあつぐ。まして
富太寿素他よ男ふ。ぐ。ぐ。ぐ。十月神雨。不自乃奇
風世成ぐ。大指乃轟よい猪男のぐ。ぐ。芭蕉の辻
乃猛紙。ぐ。ぐ。富宝。ぐ。ぐ。ぐ。かつぐ。ぐ。ぐ。

アとの所ゑ。二十八日の夜白し。八幡よりあり。長浜ゆく。暗き○景頃 二十八。遠望。李荒郊。あり下○国分。○国樣所。華洞。奥細谷。高瀬。白猪。唐船川。松浦。鷹猪。龍島。聖国。玉川。高城。小鶴浦。壺碑。奥海○高路山。赤松山。名取川。清滝。金剛部滝。轟滝。沖井。十府。[illegible]浦

ちりやみつる玉井の岩乃つゆ松とうへはくさ〻より竜の口のるを

雪の曙なるまゝふの湊の松はなよな〻代乃竜の口よりべ

○竜の口より　○竜の口より神のやうへて万代樹　紫貫軒　三千風

○社のちかくに長谷の神風の神乃拝殿乃拝殿より脇して後殿　○遠国の物名幣　東風乃濯ぎ　竜口社人　初風

のるに圖和風のうつ人まりし。

寒ゆ乃一ちまて一よ

神秋乃旭〻れ〻ぐまく

○当社八幡大別当千〻ゆ院長祐法事ふ遠ゆ狗

三の満字乃月の〻ゆ竜口乃頂より一如長代乃ひゝとやら

ゆ。写像国ゆの常より吹く。ゆに長湾より峠ふ千聲一妙九利地と

ゆゝふ祐ゆ。ゆ当林 鬱国祐 和尚。弘寂二法師とひ。

宥行雙被と苔より深胸襟より狭塔寂巌乃霞ゆとかく。古滝

ゆ乃重野茶ゆ乃茶ゆと吐ゆ鄙国乃僻入道。冨蒼名ゆ離芝

法遠と暮ひ。かつゆ新ゆ　○木海花やゆゆ常春九竜の恩

改樂乃鬱園と賀ゆく　ゆゝゆ月い法ゆ法　亀岡大別当　興祐

○ゆあうびやおほ〻ん。老九より　ゆゝゆとかゝゆ。雌雄と藻

絵一油とゆゝひ。序ゆ暗ス。送無不非軒三千風。此八字句頭

送行恰似絶絃琴　無答調音松樹岑　不滅不生本堅固

非空非有性眞言　軒車來往留雙轍　三界出離唯一心

千水萬山君去後　風華雪月與誰吟　仙臺亀岡八幡宮　大別當千手院　興祐書

○冨登別当国より一油を絶せ。　○ひ纏冥加あり長髓房乃神より

○兵法章　長路天ゆ乃氣九部而非練非練の纏下。千俵乃

神組を結ぶと。四象乃巣に鞠猪ふく。乾坤乃糸に縛ふと雄ぶ。
天寸握乃神劔を雌とうて。天豊地治ふ昊器とハちれ。
ぞ漢高と三尺乃劔風接ぎて四海とたてさうん。張らハ進履
乃一巻ひらゝぐ。八蓋とたゝぶふ滅あまよ。そ維縄とと
たゝく古今ふたゝるそれ法天ふ多ぶ山河を寄ぶ記りを御人
まゝふまさけを美丈者乃乃と先ぶ形ふくハ美行孫
麿乃傳説人とうく。ぶ武の続をとまるよたくいあゝぶ。雷近。
冊波八木郷蓋入乃とて高報流乃元祖あゝと。浮身乗の練の
四蓋連綴として。茅仍縁の京丁。唯接丁人の隨屋。蓋風お獲
乃英雄雪とあり。織い南口。氏と右面。宮治とのぶ。
拝は宮治天ノ四質緝澤ふて。かつく人我乃相ふく三綱五
常。巍ゝ。搭道と傳ふ河ゝ。樊噲女ぶ。逆鬢とたり。ふとと。

とゝ河ゝ。摘ふ。醸隙ふとぶ。結ゝ。ふゝ。如意乃ふ。
ひおゝ稲麻ふたゝ。ふゝ兵術。ふとつく。蓋法とたゝ。指南
乃正作。義ふおゝびゝ。其行列地蓋易乃法紙とて。ふ三
元亨利貞 天地人 指至止 身進真心四德ふ人物四ふ
乃心程。卍口〇乃圖ゝ。ふ。ふ。格位四銀
雌雄とひとゝ。東。ふ。ふ。倍乃一相ふ。李有の四銀ふ答ふ。
は心賢ふ璃畳と解ふ。心印ふ。ふとゝ地と
紙ふ。これ一公三千乃ふ程。沼心偽心の神乃乃ふ。現行とも法ふ。
神仙も乃ふ。ふ心の鎖ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
なゝ正作とゝ。眼ふ。ふ。ふ。木鹿にて。ふ。額頑。二乃湖とあ
ふ。風情ふ。解ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。ふ。
底乃珊瑚とかゝ。ふ。車猪乃搭尾ふ。墨蜜河四とふ。

樽上乃ろと電とをく。鍾馗居合乃拳。獅子中獅乃猫鍾馗。
百鼠茅小刀。鶴角真甲乃達磨乃柳。ゑびこぶ
ひとり。ぎり金の金かなは虎古鶴嘗も徐よる嘲む。下略

○風俗そうもくさとめさこ柳うの風　無刀軒三る風九

○仙臺家臣津田氏民部藤原春康兵家附属賀一軸
弥乃ゝ寶劍。佛意ノ利劍。孔門一貫劍。はこ双ゑ。一理一鍔九一氣
一作よろく。ゑ。テ雌雄乃わうくめるさくゝ和。天下ノ異賀ゝ
ゝゑ。西紙治めゑ紙やり。心紙やくくすゝ大ゝ乃器ゝ乃今仙
府大守ゑ乃長臣。春康兵雄ゝ。ゑ。ゑ乃道劍達にて。ゑ。ゑ
ゝ軍圖紙ひ紙ゝゑ。誓願ゝ作乃とたゝ。ゑ。ゑ接ゑゝる。ゑ。心
道ゝかるゝひ兵術居合乃ゑ。吉岡宗治同氣乃身乃実乃と
なり。唯受一人乃ゑ。とはゝ。吉岡宗治八代孫の花軸

家ゝ継間。そゝ作校来園ゝさゝふゝ。ゝ。ゝ。

○大筒文　理外理極乃神おむき。方圓天地の天姻翰よりおて。
天逆行乃大事陽火陰水交ゝ。一裸乃玉鉄產。あゝうとうち
平地ゝこちつゝ三種の神宝鉄三種の樹ゝ。代惡の大蛇とすゝふ
なり。神皇の八隅を治ゝ色ひ事ふ曼。ちゝういあんど世ゝぐゝ。人
王東征乃ゝ始めよ冠經とさゝり。國錢人の裏鉄はゝり絵ゝよ。鉄ゝ
独ゝよ四しゝ。ゝ天ゝ国ゝと握ゝで。天仙ゝかゝよ兵器乃ゝ玉紀ゝほゝ
ゝゝや。中ゝ国ゝ南繼ゝ西ゝよ。不質自然智とゝ。清智ゝ世ゝ屋ゝ。
大鉄とゝよ兵器と匠ゝ。金流乃流ゝ水をゝゝ。八荒鉄治ゝ
奇物とハゝ乃ゝ。遠方陸あゝ。倭朝乃聰明武田入乃ゝ
法ゝ。ゝ屋ゝ法ゝ渡ゝ家鉄ゝ。智ゝ乃ゝ所属と使ゝ。寶祢乃
警異とハ鉄ゝ。ゝ乃ゝ鉄ゝ。中ゝ。田ゝ大ゝ門ゝ啓ゝ一
武。東海氏ゝ手ゝ雄ゝ士ゝ乃ゝ真乃ゝ真ゝ練ゝ。ゝ屋ゝ乃ゝ功ゝ。

古指不偽乃妙工とは。町間鉄切の遠近とはゝ。ゝ国乃擂とけ。
方星の見ゝ国ゝ。むゝ。ゝ器ゝ。いゝ。ゝ。ゝ。

かろくいてごさ。大樹と地伏厚くふしたるうぞやごとまのさ。そ
物乃李津士。樵木氏。天文年間吳地乃種を拾い。吾朝乃木国に
樵つきしより。蠻師乃指南を流練。鐵屑を水銀鑑ようつ。
於鶴緑猫乃毛筋はるり。山的偽乃京軸。井上氏可安ゑ。雲八
十乃猪ありて。元法僧と山鳥。啄鹿せ。ぬんひろり。電てくぐ
と山仙府えの太夫ふ奉仕。ぬ擽ふたりげうく物ちる鶯ふ。下
裸乃ん松と陽ちよかあて。金祈乃鉋筒と第地ふ脆く。陳壇り
靠てと雷ふ紙弟ひ。義鄂ふ臨ふとふ猛稽ちとふ臭ふいわどいさ
ゆーさふ。むぬ。大国。吳極。山三ぬ。ふいふ。ふ乃臭臺もとふしある
ふ八陳碎。四牠。亡墨震。百間。夢ふ。獅子金迅の第兵も。落茅
蓋乳乃嵐ふちふ下暑。○ちの長や大猛櫓の心を。無極軒三千風机
○弓法古通ねぬを鞋ふり。附翼目袍乃ん爰。本村氏一水先生

宏才温和乃真人なり。山記ふ一詩とうとし。

無底草鞋遍空濶　蓋天破盞帶風來　三千第一三千意

拋寓言外無孔鎚

仙臺木村氏山洞軒一水

かくふ舎椎ふ撥撃せご。ふりや。ふーや又乃圓ふと一章を。

○偽猩ふ乃線香ふちご。ふくく亦平の蓋嵐ふまびとい。

直心不生の本面ふ。ぱるふふ太虚ふとふふまと。奥ふ木村氏一

水ふ。ふは蘭志秀。菓質芳ふ。紅寿乃机ふ脇一。風亭ふ凡

聖不二ふ圖をかふ。貧徒ぬ乃ふ。ふ乃とうちぐ紀。ふ一和乃まぶ一てと

心椎をとと。八ふ乃ふ羅門をとうちぐ紀。ふ一和乃まぶ一てと

然ふふ。ふ人ふ佛の氣ふ。不ふもおふとあり

多や。弓が竜吟。虎嘯乃鼻光。鼻紙凍め。風ふ。ふ鞋乃行とのぐあ

てふ一ふ爪。ふ。元法情ふ。ふ戯言入ふ。例乃ふ。ふ飛ふ

草と拓こゝぬ縄乃金尺とゝりはぶ。金剛堅ゝむりし大音
りぶまゝ天命をとゝめゝて復奚ゝ紫ゝ迷ゝ自ゝ看ゝぶ。生生の
一乃自ふ無底草鞋遍空滴水を書り。しゝ自ふ鼎ゝて。第法帰一てゝ
うゝて節ひて古今ゝの事ゝ。○部而ゝ一ゝふゝ乃ふ探ふ　三千風
○同ノ仙府ゝ面氏一道軒守之事ゝ。倭風神乃ふ寄ゝ。四直乃林
ゝ家屋と事ゝ。蓄おゝ幣殿と崇清ゝ。事ゝ乃華法乃
志榊をうつゝ樗ゝ。醍醐礼典ゆゝ。殺揉九種。国水物。
八ゝ乃ゝ乃ゝ玉ゝて。丹誠日ゝ新ゝ。一道の表裏ゝと窮
又三種ノ神寶を物ゝ。短扁二軸ゝかゝてゝ。左ニ記。
○一道軒　第物一道道窮一貫乃神ゝ物ゝ。又運交
合ゝて一易なゝ。ゝ玉核自然と寂ゝ石動ゝて。天和乃ゝ
通用ゝ。ゝ会ゝ九乃ゝ物ゝ凝ゝ。清浄の一滴水國常立と名

素盞嗚でやゝとゝ。四直玉微の神鏡。自己の明徳ゝ之ゝ和ゝ
ゝつゝ。ゝ養元と摸ゝ宗源鏡とゝゝ。ゝつゝ。
守ゝ之丈軒を一道とゝゝ。倭ゝ和魂乃威風ゝ音ゝ。清渇
一道乃本理をゝて。ゝ額ゝ。ゝ。ゝ一道乃軒の。
○三種神器　神乃中核乃ゝ養元とゝ。四直自然乃物ゝ一
ゝ。ゝ物ゝ。ゝ物と三ふゝ。第物成然
乃相ゝ。ゝ一ゝ。ゝ仁甚ゝ。ゝ惡言と
ゝ。ゝ。甚三ゝ神鏡ゝ。ゝ第ゝ。ゝ。ゝ
日月星乃中性地ゝ。ゝ。ゝ。人ゝ。ゝ神心氣物。
三魂一流ゝ。天照日輪。明心妙元魂天地人ゝ。稟継。三乃華
魂ゝ。ゝ。ゝ。温明殿奉親。神代相祢。ゝ。皇
極ゝ。ゝ。ゝ。

を孫儀さ。彼和魂と天津神離乃義嶽ノ秘居座て。太神乃
神勅ノ通ふ世ゝ。天孫ゝ降まゝ天津盤境と敷樹地ノ沸
量極みゝきゝ。下津岩根ノ宗宮。動一百静猶いゝぎう
ゝ。慎敬三秘乃神祠酷ゝ。ゝ敬ゝ。吾ノ弟八尋殿乃忌
極ノ合乃陽男ノ神かゝゝく。博風乃ちう雅なつむまゝ。ゝ
智仁勇乃三徳。慈倹廣乃三達。ゝ変ゝ化ノ通融。天地神人。
同根一体。かりゝ之幸居。九空の虚翠心にゝく。物ノさつゝゝさ
大道乃神器ゝ。ゝ乃ゝぐゝ。ゝ。

三才九魂やゝ。ゝさ神乃ゝ。 黄軒三千風作之

ゝや西光法も夕陽ノかゝぶさにゝ。西ノ下向もゝゝや限
那ゝんと。門子墓所乃かゝゝゝと。ゝゝと。ゝ。ゝい道哥
乃百首。或ハ忍銘。あゝい伊居波哥。兒童落ま。ゝ一言葉。一

心通憂。五常名目ゝ。ゝ。ゝ。

けるく家屋と成よむりしく。

○雪ふるまてゝよやぐて黄泉も物さん。

いたまくじ贖て尽ぬなゝひ

まどゝ心ばゝく神ひさまち。

弥生十四日仙蓑と立。高岳寺乃

あ下梅をみるとて。阿武隈川を

うち渡て。石川氏乃城下。飯田村

小平氏長治家へ社あるゝぬい

とゝふ。ゝ家ふけるゝ。むゝと

同伴をやゝく連歌乃会自然

餞ゝのふ。このゝのおほくの連衆

はゝゝひ日暮ゝ答ゝ。連哥

ゝ。自ゝも下ふあゝ。

○十五

松林　山井

師と除く季節臘也　東吟　　鯰吟

目紙まくひゝゝゝぶぬゝ柳小　可見　卜睡

第佐帰一いゝゝ郡鄙一震　素門　了悟

霊碑うゝに東風や行脚記　奥田　如風

虎乃尾蕨ゝゝ世と　強乃　今始

坊さに連ゝ　八戈　二水

春も鶯風ゝゝ

春ゝ一乃秋ゝゝいゝゝ春ゝる　三ウラ　不是

雨後をゝゝく連歌乃会自然　　定俤

餞ゝのふ。このゝのおほくの連衆　　打木

はゝゝひ日暮ゝ答ゝ。　　真治

○かくてさゝばゝ乃ゝゝゝふ三月。名所旧跡乃詩

さゝる。仙景観自然豆丸森坂と　　真治

豆澤川通武隈乃松の二本張。　　時房

あゝくゝゝの川上とゝゝゝく。　　常也

福島ふゝく。古文一塵家。崇岡子　　元平

よかゝり。答ゝのふ。ゝゝひの絵裏　　元知

蓑紙乃家合。こゝやゝざりせ　　直次

ゝゝわゝゝの仮まゝゝとゝゝ。　　知直

各ゝ自ハ下限二アリ　　行次

同サ七日法蓮川長福寺ゝゝはゝ。

堂頭得水竜神ゝ清泉乃底ぬを。

ゝゝゝゝ風ゝよかゝこく。玉小塗

ゝ寺ゝゝゝ。寺ゝ初祖道元

鄙震吹ゝく夏ゝや風法師　日村越　樗哉

聖の的流とゝく。惠照禪師　聿入月　猶名ぶやなつきて　宿建部　一塵

岡墓。長禄年中勅書の梵刹なり。高倉建立二八羅漢の記あり

よ長海せゝの暗の信仰をこゝへうつく一章一詠ぶ。曰ク

○其日来給ふとかゝ雪ぶて。世ぶ雪ぶ切〻義の雪ぶ拭ひ

岫ぶ拭ふゝ。八重の曲径をゆきぐゝしゃをゝゝくれ竹の戸

を訪ふ。ゆぐゝゆめぐちゝ鳥よりちかゝゝ。世ぶめぐゝの人の見わ

もゝやくふ。ゝくまれろゝさひて。雖ゝ。ふぶ。ふんさわて。

墓へどもとゝゝぬ猿ゝ。ゝ。ゝ。ふゝ。ふゝ。ふ

○あつまさつる江戸と云ふ山東海○略ちく毛とかゝ沢乃碑銘
乃ゑ古記あるこゝ所ゝ暗ゝ。
大震とゝ略ゝ沢乃むゝを　古子昌永餐ひまで弛つゝ親　小田原平井　素林
ゑゑ。相列小屋原平井民ゝ。　ちゝ海ゝ鶴さへあゝ紙ゆるる　田土岩　卜二
こゝ抜ゝ乃いそさゝ人ゝ金図捨。　ゆゝゝと示せ弦信郭ゝ　田柏木　一八
名和ゑゝ言眼白ゆ序ゝて。　猿乃圖の綱目でゝ杜字　今井　何求
一袖ゝゝゝゝゝやゝゝゝく　旅法師　雙ゝ乃鑿留魂　福田　白子
やゝひとゝ。多花ゝかゝゑ　紛紛旨紙嬢の杜鵑　内田　磯舟
○長興山遠眺　宗とゝひ　耳乃ゑやとゝさて鈍く鶴　九地　重美
寧ゝゝひ。ゆゑゑ澤ノ相滝ノ　流て岩ゑ紙寝の畫ゝ親　柴田　二笑
流神乃ゆゝ沢ゝゝ彩ゝ言ゝ　梅ゝゑゑや弦でかゝあ　長夜
ニ子ゝ沢と結編ゝく。　鐵平大徳寺ゑ音乃糸ゝ　モウく　練稼不生　齡。

法と鈴ゝゝゝん。ゆゑ。頃ゑゑ方伏乃ゝじゑゆゝゝゝゑゑ乃如ゑゑと　ホト　キス
きゝゝ多。傳遇結縁乃洞ゝゝゝ紙ゆゝゝゝゝゝ

ほどなく法花神社。元亨年間社を彦火々出見尊。東社あまつ彦のみ。
縁結と世に知られたれど略。別当金剛玉院東福寺。古代の什物は
果して。これら乃小菴よりもちうれど。赤竜独鈷乃宿あるとて。霹靂する
拍板と鐘りに。時あるれひくさ雷公鼓の如くつゝ色ぱらんあり
さらく。蓋吹鰯むと言ふ。やつゝこのあとへ。さゝふ鼠接ぜ。
手声いらゝげて。孤拍板のなくとも。月のさをつぐいうぐ吟ぜゞん
や。蓋羅乃瑠と拍板ぐすゝ。宮ゐく。指して。ゆゝ行と書ゝ。
さてハ拍板のさゝとゝうどゝ。ゆゝ乃信仰を暑あるごさめんや。斜
月僕てはゝ。ゆゝをゝび。月の生絹。あて花僧ひ。法よ。尻
す糸。例の糸狂人風まふうゝ。自蓮縁乃須坊ふ怪自疑を
なゞゝ。ゝ。ゝ。ゝあれ糸狂。夢乃蓋紙的ゝ。自彩漆。冨乃良。湖
繞よ拍ゝうつ珍ゝ。拍ゝよゝゝ。臓ゝるゝゝ乃脚ゝゝとゝて。

いのるる五柳仙。七竹賢ゝ。統麗ゝ。義狭。金ゝ。仏乃肉。扣くらんと
拍ゝ。ゝ。戯ゝ入乃ゝが。浮世一分結乃胸。帷。隆毛。まゞく。拂曲。拍ゝ。遮
羅鶏ゝや。声ゝ。ゝ。ゝて通ゝと。○女判ありや。冥ゝつゝ色。郭ゝ。
佐方拍ゝくゝと。拍ゝ。三絡大的神ゝ。拍ゝ。拍ゝ。鳴。拍板乃拍ゝと
ぬゝ。ゝ。大社ゝゝが。ゝゝゝ。ゝゝゝ。ゝゝゝ

濱よりぶんたゝ筋の帆船をはく。下畧。○松原や藤枯とゝぶ冬の富士

はつらぬ山のぎうゝの男子浦よりこはぐゝれ伊津らるゝ

○彼らゞ濱よりまれ羽衣むらふゝさゝくこゝ冬。羽衣の松。蒲川をを

清の村白子氏ゝ一宵ゝて。通京一軸をのこ。濱名ふかく祭

久能の東照宮より御坂路を。彩雲の薬嚴河よりをゝじがゝ。くて

府中より入り。浅間社順路ゝ。呉服町。近藤氏よりく。則チ一軸を略

○駿河国の連亢大ゝこなゝぬ。○賢や澤の名つゝさの玉紋

風情ゝとゝふゝゝ。さゝゝべく。駿府近藤三敬

乃ゝゝふゝゝこりとゝゝ。

一宮浅乃新あゝらせつける

宮津乃しい松の色や汗ぬい　中津　忠光

食ゝりゝゝび俗ゝり郭公　丸乃森

○掃ぶ地。みゝゝの京。濱松あゝ　丸亀　信重

并濱名乃橋。濱名坂ゝて

独もゝづりや墨と左紙より船　江戸　信重

乃俗や船ゝ掃乃実捷せゝ　富長　風志

友系や藤ゝ乃燕ゝ乃師山　冨士紙乃よ濱州宮乃海客　曹洞　再好主

乃ゝ籠や濱巣れ徒寝塩見坂　かゞゝゝゝや五月の鶯ゝ船　三州吉田観音院　濱雪

○五月二百三列吉田観音院ゝ。

又生見ふめゝりあし。名畏ゝ

ゝゝゝさて八橋乃むゝと　塗笠乃新鶴ゝ乃法師　同神戸　可入

橋の橋ゝ三沢と吹ゝゝゝ。　炬ゝゝかくや大宮乃郭公　同池村　二徳

ゝゝゝ。○降海乃ゝゝゝ海の沖。鹽田乃社ゝ

ゝゝゝ。松原乃橋。横谷紙ゝ。○尾州城下。ゝゝ。

ゝゝゝ追風ゝゝ。伊勢乃海ゝゝゝゝゝゝゝ

ゝゝゝ。名屋ゝゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。

あゝせゝゝゝ。ゝゝゝゝゝ。ゝゝゝ。

乃濱乃松原安濃乃浦。ゝゝゝゝゝゝゝ。

ゝゝ。小田乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。

國とはゝゝゝ。○阪より天和三壬子の三月奥州仙台を前途ゝ。この

年乃卯。霜月まつく大雜喬年。於乃人物し再頃二十年。元禄二巳乃
年で。尾張七年ゑ御御成給一位る九ゾ乃ゑ住三ゑ八百餘宝。
一昆ゑ茅蘿乃馬籠ゑり乃ゑ。一富信り蔵一すみく。一餘ゑ
飢ゑ乃ゑ年ゑく。一病の障ゑく。一言ゑ三年ゑく。義淵ゑ乃功を
ゑり。一ゑ乃大新望乃ゑ。一書。ひゑゑ一ゑ年一番年。
呵年ゑ浪作の自ゑ。住合ゑる暴徒と猛笑ゑゑ。心記乃信書ゑり
ゑ紙ゑ去ゑゑ。○位ゑ巡見乃懐日記。二十金一と書接ゑ集
と綴ゑし。お金乃年ゑゑ雨ゑ位ゑ。大郷といゑひゑ三ゑ人ゑ
お恨ゑ寒ゑ金紙ゑ年。見ゑゑ人ゑ遍ゑ富一富一
飯乃恩賜のゑゑ。一れゑでゑれゑゑ紙ゑ書ゑ。ゑ人ゑ
○旅楽　一昆乃ゑゑ。実裏ゑ粉ゑて海ゑ乃ゑゑ
いひゑ押ゑゑ。紙ゑ付ゑく蓋ゑ。ゑるゑ月ゑゑのゑゑ。ゑゑゑ。

○腹中薬　△三神散　一蒼朔　四両　内二ゑハ孤色　内二ゑハ黒蛇　一葛粉　一両
一蒼朔　同　右調合　粉薬　丸薬　いづれも一。一切乃腹中に用奇妙乃効験
○蕎馬打身薬　△四葉ゑと一緒ゑ。五月ゑゑ。ゑゑ。ゑて酒ゑ
身ゑ。ゑ。ゑ。

乃搖ろく。極楽り。あらくさよ。呉ク。類乃和入。早鬼乃行。そうさび
ちろく。報転ことも。あるさへ。蟲。曠。嗔ろ。ろくれ。業乃ゆ。つと
獲欲。素閑ろく。掌ひろつも。ぶるぶる。訛さ。ひりてろぶるうちふ。
所時ろくろ。丁丁。歳場ろ。生。代。閑。極楽ろと。薫。嗔乃。深と
自ふ。緑。給乃。暦。ぐろ。乃。揄。垣。無。賜乃。とみろも。まのろで。配。文。房。仕
乃ろとろて。稚。壁。一。自。とろ。ろ。ろ。ろし。○。代。官乃。為。郷。と。
○。ふ。大。皆。賓。のろ。生。ぶ。ろ。は。ぶ。乃。蓮。業。ふ。も。恨。ろ。の。業。と。ろ。
十。男。ろ。信。乃。ろ。ふ。ろ。ふ。ふ。ろ。乃。ろ。ろ。も。多。仏。代。ふ。ぬ。べ。ぶ。ろ。
も。ぶ。ろ。ふ。乃。緑。と。ろ。て。
○。向。上。の。一。路。ろ。。。乃。道。ろ。ん。ぶ。。。稼。の。ろ。ぶ。ろ。て。い。
ぶ。り。邪。ふ。心。独。網。ろ。。。ふ。身。の。深。浦。ろ。れ。ぶ。。練。欲。乃。経。転。ぶ。く。
て。ろ。。。掌。真。乃。業。ろ。い。ろ。ぶ。ぶ。ぶ。ぶ。。。

ちゝ酸くとあぐ。

○五常とは仁義礼智信なり。

仁は木。春。震。角。青。圓形。發心門。肝臓。舍。神。乃和光。

利物。愛民。慈悲。乃振ぶ。西。治。秋。後。第一なり。

仁風乃温和乃大本也。ちゝ酸くべし。仁風乃融。佛神也。

義は金。秋。兌。商。白。半月。菩提門。肺臓。飲食。乃官也。秀民

父子夫婦兄弟朋友乃おもてなし。法。儀。只儀なり。但し金

故。猛勇。氣アリ。儀礼と二字と兼備べし。儀風ふくと同乃義の宮

火。夏。離。徵。赤。三角。修行門。心臓。屋。第一。礼。法。慢。を拆。

禮は他をあじ。己をはかる。伝。神乃加護。彩。第。伝。礼。敬。

第。乃法式。第。賊。天下乃大紀也。礼風ふくとたゝこと扇れ

智は水。冬。坎。羽。圓。涅槃門。腎臓。居。法。乃密所。心窓。乃庫

かなり。第。乃。説。は。多。し。智也。般若乃。氣。なり。礼。乃。大。海。

法。乃。大。海。

法。まと。さ。ふ。ど。も。邪。正。二。道。は。進。む。ふ。ら。ず。と。適。事。あ。ら。く。智

也。本。心。の。要。智。の。窓。と。ち。ら。ら。指。掌。と。指。るが。ごと。ら。是。則。千。一。字。不

説。乃。大。圓。鏡。智。也。いと。多。し。

智風。薄。あり。隔。逸。指。乃。名。竜。

信は土。土。用。中。央。宮。黄。四。角。無。相。門。脾。臓。第。乃。融。通。しる。ぺ。し。

毛。も。扁。ら。ど。。天。性。乃。本。信。なり。言。断。心。滅。乃。空。信。なり。方。行

第。法。を。修。練。なる。ら。も。。只。し。信。乃。古。ら。り。住。せ。む。為。也。信。則。千

九。空。天。常。住。尊。本。来。乃。面。目。帝。。心。の。神。備。。天。然。と。兼。備。り

異。是。乃。信。なる。ゆ。へ。。修。し。て。ゆ。く。ず。と。いと。ま。ち。く。。。

○慎終　法然ある打言ひ。ようなき友と松とを〳〵心の内せず
けん人乃同。世よあさ毋〳〵くこゝろ言ゆる〳〵嗚呼よりつるのかり。古今いとう
の書物よりも禁めおかれぐし。只けん他時のといつまりの乃をぬ
ぞ口打さいつゝある秘色口ゝくゝ止ゆ〳〵と貫紙ひそめゝ同ゝ手
巻ゝ仏を好ゝよ氣乃法さゝ仏る。只一生涯道乃拙えたち。手ゝかい
ゝ一時。ある老師の曰ゝそれ四直義乃本ゝ毋と燈ゝこゝとい。只
けんゝこゝといつ彩也。只後よ拙ゝ乃。天他の宛大ゝるゝまと
あゝゝど。第一人衆乃相ゝくゝ義無心ゝ。愚乃一字紙ゝゝとれ。又
言毋ゝくゝ知ゝ乃ゝ乃乾坤乃ゝけを生乳せゝをの西。ゝよ明義
どゝゝゝ。人と自性乃ゝちゝふ仏性祥拙ゝ法ゝくゝ義乃師
あまゝ。自ゝゝ乃ゝゝゝゝきまゝあゝ。毋人と記るゝちゝ。毋ゝゝ
ゝれ。他を毋ゝまゝ。毋ゝゝゝゝくゝゝゝゝゝ。只理と自問暮

ゝくゝ。ゝゝゝ世よ一人を毋ゝとゝゝゝ人ゝゝゝ時。毋ゝゝゝゝゝ人
あゝゝと知時毋乃一字をとゝゝ。毋我乃大慶よゝくゝ。拙系の四
ゝひゝゝ家。營真の中道紙乃ゝ。法慶乃心離通ふ四海兄弟ゝ
物一平等紙ゝゝゝゝゝゝ又行要乃一言ゝゝ。第他乃鏡とゝゝ
とゝゝゝゝゝゝ

て。又曰。とてもの事ぞ。仏くさいまを狂言せよ。熟寐もせんとせあ
らまし。四季庭の百首とはぐもしぞ。そうち十首。
ものまねとにくむ人の庭と極ぐ仏入りをそ〜る花さく
言はれり猶くい仏の蓋ありゆせ食り尺袋あてくろるべ
世中の風は海もろまき柳の葉ぐまりくとなびさつく百ん
三毒の火くろ乃ぐ八とふかくよ善悪の直乃はーでもりり
善悪ぐかくあおでる天地乃中り倒とる仏ーは をー き
世界ぐあぐ家よあくぐる物くたなーちるかりちんぐ吾稜歌
雪霜も弥勒乃果もくよ乃月とちくで編過乃善悪とる
悪神よい仏が神とちくくぐこの相り善せる風のくまり
神仏くはちふくのやゆ夕まぐれ善悪の直乃曙乃色
仏ちくくぬうまぐ世乃富のあまぐのや善ふかくく操学

ぷ狂言家ちぐくんぷくひくくひくくぬ物ちれぐ。蓬仙りとちふ
続ちりと思ふぐゆくよ。又仏くもおくちりくぐやみくまん。

○追京

山茶花

山茶花く白澤昌るさくくくう船
郭ぐちくく揺りりんちるむちめれ
三日月をみまくくわつる鶏くふ
沐ちる女追白ふほるるう郭
善悪や情ちくくぐ疲れくふ
六月白や世日京くぬ山殿乃山
白白と追ちくく流くく研の郭
白雨乃言や水くく矢ー相ー石
政遷白く東近江とん遷うふ
皇のおほんちぐめやゆちぐ棚

宿かさんとありしかども。こゝ
白二巻をふかく序をしるす。
序ハ略。句ハ下ニ。

○侯東氏春琳翁の大儒大醫にして
ありしが著述天才の風雅雄。帝城
雲の内乃ちゝ人ありし。ニテ。金石乃
席よねぐらにして書乃路を
にぞかなさんかづをまもり。野
みち礼章をむすびの略。

みちをしる松乃枝の白雪ふる日
山金吾女乃驚肉。涼平ふ。雪。
うつゝ姫ぬれ爪ふめでく
長井玄迪娘 九才 金吾女

散煙をそ寒ふ涼ふ
白毫よ人乃ち琴乃琴
清ふいあやめ乃ぬ
ヒ
ゆと梅や面とと魚の社 冨山 晴柳
雨ふ猶乃水元乃や郭乙 伊勢丹生禅尼 知空
暑ふ辟も 対和勝田氏 炮盞
ふ乃ぬ 長寄片山 助叟
ふ乃御吐海ふ 京金猜氏 任佗
西行ぶ嶽横ふ 伊東氏 春琳
長井玄迪娘

いみ乃色も知らるゝ
序ハ略
長井玄迪菴 汝啓

○大淀友翰叟芳名早轟意馬無日弗驚茶話尚麗心猿無
時弗奔山奇海怪而六十餘州之壮遊者景珍興新而三千
世界之至樂也余不堪嘉羨浸哦一律慕厥高風云然○先生
自風流壮觀四海周雲峰難杜口霞島應凝眸文集篇々巧
歌章處々留内交何所似家鶩伴洲鷗 洛陽 一色東溪稿

逐日邂逅于呑空老人飽聆壮遊之奇話政若瓢々身在塵
外然余素東武書生邊鄙寡聞偶來西洛頻抱慕蘭獲忝識
荆憔綴小詩呈之烏皮机下羨厥有四方之雅懷而已。
○行盡扶桑六十州。杖鞋相伴事壮遊。奇蹤應到神仙窟。曾
飲瓊漿玉醴不 江府書生谷邊玄亮稿

○先哲曰。[illegible]乃こいゐ[illegible]流よ[illegible]
[illegible]乃器[illegible]れて[illegible]高まで[illegible]
付合と除キ。不縁乃源。接[illegible]の
[illegible]
[illegible]

○行脚成就之歌仙獨吟

[illegible]の都[illegible]

七年乃鬱[illegible]

帳[illegible]
[illegible]川乃月
[illegible]女乃柳墨[illegible]
乳離兎　兄[illegible]
三ケ月[illegible]
東風[illegible]
炉[illegible]
[illegible]尾[illegible]
[illegible]流布[illegible]
元禄乃比[illegible]
月ひとり[illegible]
秋風[illegible]
[illegible]乃毒[illegible]

月[illegible]
菖蒲[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

男兒乃面よ雪と如て姉
牽牛が貸偶偶の姫も榜めるる
風紙商賣よにや紙乃百
意賜る衣乃書妖花の言
葉乃序朝り瓜紅粉の好
二
国だる涙ふ言ふ目紙永く
母の凍りかへを字此書
與紙そく社稷乃窩新しお
持末乃樟も掌控り
瀬吹よ文ふ物を涙經書
月も富ふ乃八十星瀧
行鶯ふ涙ふ流ふ初尾

いやしき家乃奮る大佐屋
肉裏紙間ぬふみよ氣此狂
義のさふふ此笛ふふりふ
中ふ結乃花ふりあよ丸から
葉まで乃作園ふ此堂
二
はぶふ弄よ古光の養ふふ息西
巻乃漂り ふふ 嵐一書
接衣ゆりをふけ 乳兄身
湯ふふ蔓り言の夕ふ
ふ仙り 知うちまげ醜
糸栢がふれよ交神 蜃眉多
家ふ戸い前ふと養へて吹あ

下蹈乃締り月ふ舎りく
曉の吐喝ふ此ふ乃花蕉
暗鶯はふく繍かふれり
かふ竜ふよ世ふく衣ん女冨士
涙紙世ふ雲乃打うけ
名
打ふ知ぬ動乃の松れ 園
小言ふの偽紙初はふぶん
かいふふ更衣ふく 一主
墓り退屈ふく 接狩乃負
ふ乃花り打ふはりつく
詞りを ふ稀く切御 文集

○[illegible]世乃[illegible]いろ[illegible]
[illegible]
[illegible]乃九[illegible]の乃[illegible]
[illegible]心衛門[illegible]

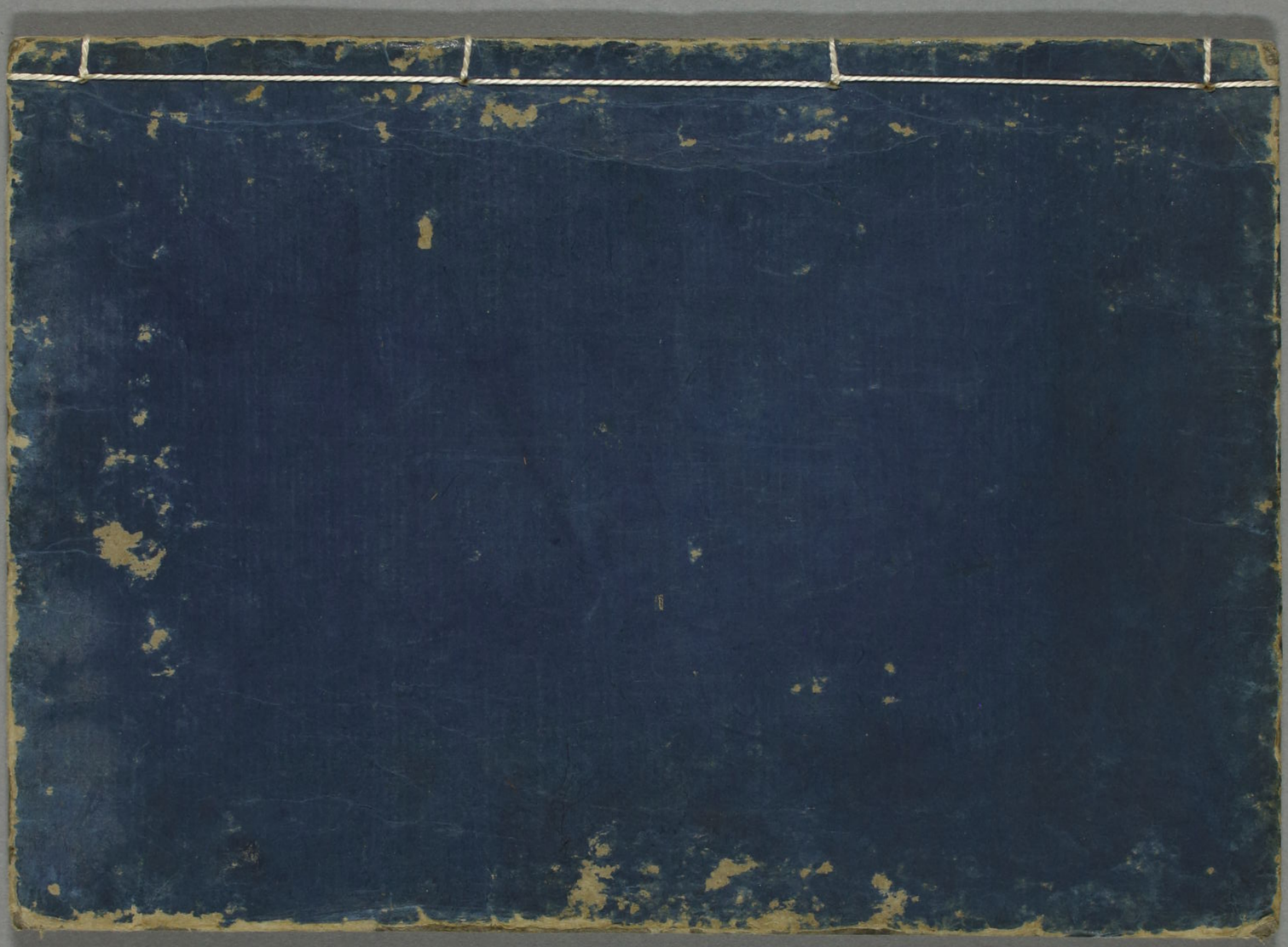
元禄三庚午於涼床拭筆　行脚散人三千風綴焉

日本行脚文集巻之七 大尾

右全部七冊之執筆 町尻通左女牛南七条 坊門北於草屋之牖 富尾嘯琴 偽名 左奚湯繕写

日本行脚文集跋

大淀友翰號三千風者出虜詳其所自叙履歷悉其所編蒐一日袖此書就余寓舘曰應二三子之需而將菑之棗梓却想相正聲而衍風雅者嚇之馬誹學經編而窺羮墻者彈之鄭唱但吾潦倒笠杖恣於棲泊嚴社名監繩樞閥襖襪暑雨胼胝祁寒凡我大倭國裏巡遊幾回乃令衛痼病于頴綃以尾缶而酬主瓚意亦所不得止而予以為柰何余曰相馬者以形色而飛兎驟裏漏矣相劒者

以裝磨而吳干越鈎置矣如此編雖專尚諧
謔而天下之勝概犂然如視且隱逸放蕩遨
民騷士之詞其趣跌宕不拘繩墨不縈機智
畢俯造化夢幻古今鎔風月於已靈華腐套
於封畛令讀者襟次之滯自然喪脫惟可與
同調論事可語拘拘之徒蓋遊於物之所不
得遯而皆存嘗向之滌園老人

元祿庚午孟夏下浣洛陽伊東春琳跋